

熊本県文化財調査報告第 327 集

The Higasijounohira Site
東城ノ平遺跡

—九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告—

2018

熊本県教育委員会

東城ノ平遺跡

—九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2018・3

熊本県教育委員会



東城ノ平遺跡より大矢野原演習場をのぞむ



東城ノ平遺跡全景



調査区南壁土層（上）

調査区出土遺物（下）

序 文

熊本県教育委員会では、九州横断自動車道延岡線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、上益城郡山都町城平に所在する東城ノ平遺跡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、山都町に立地する遺跡解明の手がかりをつかむことができました。この成果は、当時の人々の生活様式の一端を知るうえで大切な資料となると考えております。

今回の報告が、過去の調査成果と併せて今後の調査、研究に活かされることはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として学校教育や生涯学習などに幅広く活用されることを切に希望します。

最後になりますが、本調査を実施するにあたり、ご理解、ご協力をいただきました国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所、山都町教育委員会をはじめ、関係各位に対し心より感謝申し上げます。

平成30年3月31日

熊本県教育長 宮尾千加子

例 言

- 1 本書は、国土交通省の九州横断自動車道延岡線建設事業に伴い記録保存を目的として実施した熊本県上益城郡山都町城平所在の東城ノ平遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 現地調査は、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所の依頼を受け、平成28年に熊本県教育庁教育総務局文化課が行った。
- 3 整理・報告書作成は平成29（2017）年度に行った。
- 4 本篇で用いた平面直角座標は世界測地系を用いている。また、国土座標軸による基準杭の設定は、株式会社有明測量開発社に委託した。
- 5 航空写真は、株式会社九州航空に委託した。
- 6 発掘調査に係る整理は、熊本県文化財資料室（熊本市南区域城南町沈目1667）で実施し、調査記録及び出土遺物は、熊本県文化財資料室に保管している。
- 7 本書の編集は、廣田が中心に行い、唐木・前田が補助した。

凡 例

- 1 本書で使用している方位は、座標軸を基準とした北を示している。
- 2 報告書に記載した実測図の縮尺は挿図ごとにスケールを示した。
- 3 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新刊 基準土色帖」（財団法人日本色彩研究所：2004）に準拠した。
- 4 写真の縮尺は任意である。

東城ノ平遺跡

—九州横断自動車道延岡線建設に伴う発掘調査—

巻頭図版

序文

例言

目次

本文目次

第Ⅰ章 調査の経過と経緯	1
第1節 調査に至る経過	
第2節 調査の組織	
第3節 発掘作業の経過	
第Ⅱ章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	
第2節 歴史的環境	
第Ⅲ章 調査の成果	11
第1節 調査地の基本土層	
第2節 調査の方法	
第3節 遺構・遺物	
第Ⅳ章 総括	19

写真図版

報告書抄録

奥付

挿 図 目 次

第1図	熊本県域における地形表記と九州横断自動車道延岡線建設により発掘した遺跡
第2図	東城ノ平遺跡調査区位置図 (1/10000)
第3図	東城ノ平遺跡周辺遺跡地図 (S=1/50000)
第4図	調査区基本土層柱状図
第5図	東城ノ平遺跡全体遺構配置図及び地形測量図 (S=1/200)
第6図	東城ノ平遺跡調査区東側及び南側土層断面図 (S=1/100)
第7図	東城ノ平遺跡土層断面ポイント及びグリッド設定図 (S=1/200)
第8図	東城ノ平遺跡調査区内土層断面図
第9図	土坑 SK01 遺構実測図
第10図	調査区内出土遺物実測図－①
第11図	調査区内出土遺物実測図－②
第12図	北中島西原遺跡基本土層との対比図 (縮尺任意)
第13図	東城の平遺跡の広がりについて
第14図	東城ノ平遺跡座標測地点図

表 目 次

表1 東城ノ平遺跡調査工程表	表3 出土遺物観察表 (石器)
表2 周辺遺跡一覧表	表4 出土遺物観察 (土器)

写 真 図 版 目 次

巻頭図版1 東城ノ平遺跡より大矢野原演習場をのぞむ	図版6 1.6530G 東側断面
巻頭図版2 東城ノ平遺跡調査区全景	2.6015G 北側断面
巻頭図版3 東城ノ平遺跡調査区南側土層断面 調査区出土遺物	3.6020G 北側断面
	4.6025G 北側断面
	5.6030G 北側断面
図版1 1. 東城ノ平遺跡完掘状況	6.6515G 北側断面
図版2 1. 調査区南側断面	7.6520G 北側断面
2.6530G 南側断面	8.6525G 北側断面
図版3 1. 調査区完掘状況 (東→西)	図版7 1.6530G 北側断面
2. 調査区完掘状況 (西→東)	2.6530G 南側断面
図版4 3. 調査区完掘状況 (南→北)	3. 土坑 SK01 検出状況
4. 調査区完掘状況 (北→南)	4. 土坑 SK01 半掘断面
図版5 1.5520G 東側断面	5. 土坑 SK01 完掘状況
2.6020G 東側断面	図版8 1. 調査区内出土遺物
3.6520G 東側断面	
4.7020G 東側断面	
5.5525G 東側断面	
6.6025G 西側断面	
7.6525G 東側断面	
8.6030G 東側断面	

第 I 章 調査の経過と経緯

第 1 節 調査に至る経過

事業予定地に係る埋蔵文化財試掘調査について、平成 26 年 7 月 22 日付け国九整熊工事第 32 号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あて依頼があり、熊本県教育庁教育総務局文化課は平成 27 年 3 月 4 日～6 日に村崎孝宏（主幹）及び水上正孝・佐藤哲朗（文化財保護主事）を担当として埋蔵文化財試掘調査を実施した。試掘調査の結果、遺構・遺物等の存在を確認した。平成 27 年 3 月 18 日付け教文第 2354 号で熊本県教育長から国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長及び山都町教育長あて試掘調査結果を通知した。当該地は、山都町教育委員会と協議の結果「東城ノ平遺跡」と命名して熊本県遺跡地図に新規記載し、平成 27 年 8 月 7 日付け教文第 1160 号が熊本県教育長から山都町教育長あて通知した。

新たに確認された埋蔵文化財包蔵地「東城ノ平遺跡」における土木工事等の実施について、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所及び熊本県教育庁教育総務局文化課が協議し、工事の実施前に記録保存を目的とした埋蔵文化財発掘調査を実施することになった。

埋蔵文化財発掘の通知について文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 94 条第 1 項の規定により平成 27 年 8 月 21 日付け国九整熊三工第 39 号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あて通知があり、試掘結果を踏まえ平成 28 年 1 月 20 日付け教文第 2012 号で熊本県教育長から国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長あて発掘調査の実施を通知した。

熊本県では、平成 28 年 5 月 26 日付け教文第 295 号で熊本県教育長あてに文化財保護法第 99 条第 1 項に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を提出した。現地における発掘調査は、平成 28 年 7 月 6 日から平成 28 年 9 月 30 日まで実施し、発掘調査面積は約 900㎡である。

発掘調査で出土した文化財は、文化財保護法第 100 条第 2 項で準用する同法第 100 条第 1 項の規定により、平成 28 年 10 月 5 日付け教文第 1342 号で熊本県教育長から山都警察署長あて通知した。

第 2 節 調査の組織

現地における発掘調査及び整理・報告書作成は、平成 28・29 年度に熊本県教育委員会が調査主体となり、熊本県教育庁教育総務局文化課が担当した。その調査組織は、以下のとおりである。

平成 28 年度（本調査）

調査主体 熊本県教育委員会
 調査責任者 平井貴（熊本県教育庁教育総務局文化課長）
 調査総括 村崎孝宏（課長補佐）、長谷部善一（主幹兼文化財調査第一係長）
 調査事務局 松永隆則（課長補佐）、左座守（主幹兼総務文化係長）、天草英子（参事）、竹馬牧子（主事）
 調査担当 廣田静学（主幹）、伊藤精一（文化財保護主事）

平成 29 年度（整理・報告書作成）

整理主体 熊本県教育委員会
 整理責任者 岡本郷司（熊本県教育庁教育総務局文化課長）
 整理総括 村崎孝宏（課長補佐）、長谷部善一（主幹兼文化財調査第一係長）
 整理事務局 松永隆則（教育審議員兼課長補佐）、左座守（主幹兼総務文化係長）、稲本尚子（参事）、竹馬牧子（主事）
 整理担当 廣田静学（主幹）、唐木ひとみ・前田康行（非常勤職員）

第3節 発掘作業の経過

平成20年度より、九州横断自動車道延岡線建設路線における周辺遺跡の予備調査、資料収集と国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所との協議を重ね、平成28年度7月発掘調査に至る。

調査対象箇所の除草終了後、重機を用いてI層～IV層（土石流堆積層）の掘削を行った。調査区内に5m×5mの区画を設定し、Va層（黒褐色土層）以下、一部VIb層まで順次掘り下げた。

人力による掘削作業では、遺物包含層の掘削と並行して遺構検出作業を行った。遺構は土層作成及び遺構の検証のため土層断面を残し、図面実測後に撤去し、平面図の作成を行った。遺構実測図については、委託業者が実測後、調査員が補足部分等を書き足した。また、それぞれの調査段階において写真撮影（中判又は35mm）を実施した。調査区全体を含む高所から完掘状況及び遺跡周辺地形の写真撮影はセスナ機を用いて実施した。

発掘調査は、調査区が谷部に位置している関係から、湧水に悩まされ作業効率が落ち終了までに3ヶ月間を要することになった。その調査経過は次の通りである。

調査区の重機による表土掘削は、国土交通省の協力のもと6月13日から6月17日に実施した。人力掘削を7月6日から9月30日までの37日間の期間であった。

以下、特記事項について記述する。

7月6日（水） 道具、機材搬入。調査地は梅雨末期の大雨で水没したため、環境整備中心に作業を進めた。

7月7日（木）～7月18日（月） 水抜きのため作業休止（水中ポンプによる排水作業）

7月19日（火） 調査区北西側から清掃を始めるが、農地の造成によってローム層まで掘削を受けており遺物・遺構を確認することはできなかった。

7月20日（水） 調査区北側の排土作業をすすめながら、土のうを作っていく調査区内に雨水流入を防ぐため調査区外周を囲っていく。排土中から黒曜石の石刃片が出土したが、出土層については不明である。

7月21日（木） 調査区北から南に向かって排土作業を進めていったが、粘性が強くまた水を含んでいるため作業は困難を極めた。

7月22日（金） 本日をもって排水、排土作業は終了した。調査区の東側のIV層と西側のIV層の色合いが若干違っているが、現在のところ堆積の違いなのか不明である。今後、確認トレンチを入れて土層の堆積を確認する。

7月25日（月） 雨天のため作業中止。

7月26日（火） 株式会社有明測量開発社による測量杭の設置が行われ、調査区内に5m×5mの区画の設置を行った。各区画の堆積状況を確認するため杭を中心に幅1mの確認用のベルトを設定した。

7月27日（水） 5515・5520グリッドに土層確認用のトレンチを入れる。V層が南側に向かうにつれて厚くなっている。また、部分的にIV層（土石流）の堆積がみられる層の除去をおこなった。出土遺物・遺構とも確認できず。

7月28日（木） 6015・6020グリッドに土層確認用のトレンチを入れる。IV層が分厚く堆積が見られ礫がかなり含まれている。IV層下よりV層の堆積が確認できた。5515・5520グリッドV層（遺物包含層）の面掘削を開始する。

7月29日（金） 5525・6025・6030グリッドに土層確認用のトレンチを入れる。5515・5520グリッドV層（遺物包含層）掘削終了後、IV層面で遺構確認のため清掃を行う。遺物・遺構とも確認できず。

8月1日（月） 6530・6525・7030グリッドに土層確認用のトレンチを入れる。IV層面を確認する。5525・6025・6030グリッドV層（遺物包含層）の掘削を開始する。

8月2日（火） 6015・6020・5525・6025・6030グリッドのV層（遺物包含層）の掘り下げを進める。遺物・遺構とも確認できず。

8月3日（水） 5525・6025・6030グリッドのV層（遺物包含層）の掘削が終了。

8月4日（木） 6520・6515グリッドに土層確認用のトレンチを入れる。6015・6020・6530・6525グリッドのV層（遺物包含層）の掘り下げを進める。遺物・遺構とも確認できず。

- 8月5日(金) 山都町「いきいき大学」現場見学。参加者約30名
- 8月7日(日) 山都町「山都塾(古の山都に、タイムスリップ)」現場見学・体験発掘。参加者約40名
- 8月8日(月) 7020・7015グリッドに土層確認用のトレンチを入れる。6015・6020グリッドのV層(遺物包含層)の掘削が終了後、遺構確認のため清掃作業を行うが、遺物・遺構とも確認できず。6530・6525グリッドは引き続き掘り下げを進める。
- 8月9日(火) 雨天のため作業中止のため、プレハブにて図面整理を行う。
- 8月10日(水) 6530グリッドV層においてSK01(土坑)を確認。検出状況の写真撮影後、半截する。
- 8月12日(金) から16日(火)まで現場作業中止
- 8月17日(水) 5525グリッドに土層確認用のトレンチを入れる。6025・6030グリッドV層の面掘削。SK01(土坑)断面図作成及び完掘状況の写真撮影。
- 8月18日(木) 6025グリッドに土層確認用のトレンチを入れる。5525・5520グリッドV層の面掘削。
- 8月19日(金) 6025グリッドに土層確認用のトレンチを入れる。5525・5520グリッドV層の面掘削。
- 8月22日(月) 5525グリッド東側面に土層確認用のトレンチを入れる。5515・6530グリッドV層の面掘削。6025グリッド北側面断面図作成。
- 8月23日(火) 6015・6020グリッド東側面に土層確認用のトレンチを入れる。6530グリッドVI層の面掘削中に礫の集中を確認したが、遺物等の出土なし。
- 8月24日(水) 6020グリッド北側面に土層確認用のトレンチを入れる。6530・6020グリッドV層の面掘削。5525・6025グリッド東側面断面図作成。
- 8月25日(木) 6030グリッドV層の面掘削。6020グリッド東側面断面図作成。5525・6025グリッド断面写真撮影。
- 8月26日(金) 6030グリッドV層の面掘削。5520・6020グリッド東側面断面図作成。
- 8月29日(月)～9月5日(月) 水抜きのため作業休止(水中ポンプによる排水作業)
- 9月6日(火) 6015・6520グリッドV層の面掘削。
- 9月7日(水) 6015・6520グリッドV層の面掘削。5520・6020グリッド断面写真撮影。
- 9月8日(木) 6015・6520・6515・6525グリッドV層の面掘削。6520グリッド北側面断面図作成。6020グリッド断面写真撮影。
- 9月9日(金) 5510グリッド北側面に土層確認用のトレンチを入れる。6515・6525グリッドV層の面掘削。6520グリッド東側面断面図作成。6520グリッド断面写真撮影。
- 9月12日(月)～9月14日(水) 水抜きのため作業休止(水中ポンプによる排水作業)
- 9月15日(木) 5525・5520・5015・5515グリッド北側面に土層確認用のトレンチを入れる。
- 9月16日(金) 5520・6535グリッドV層の面掘削。
- 9月20日(火) 昨日の雨天により調査区の半分が水没のため、水抜き作業を続けながら、6535・5530グリッドV層の面掘削。
- 9月21日(水) 6525グリッドの南側ベルトの撤去。6030・7020グリッド東・北側面断面図作成。6030・6015・6515・7020グリッド断面写真撮影。
- 9月22日(木) 6525・6530・6030・6025グリッドV層の面掘削。
- 9月23日(金) 山都町立矢部中学校「総合的な学習(地域を知る)」現場見学・体験発掘。参加者約20名
- 9月26日(月) 6525・6535グリッドV層の面掘削。6015・6515・6530グリッド断面写真撮影。株式会社有明測量開発社による地形測量・調査区測面断面図の作成。
- 9月27日(火) 調査区全体清掃後、各グリッドの完掘状況の写真撮影を行う。
- 9月28日(水) 調査区南断面及び東断面の清掃後、写真撮影を行う。
- 9月29日(木) 雨天のため作業中止。本日の航空写真は天候不順のため順延。
- 9月30日(金) 道具、機材搬出、調査終了
- 10月5日(木) 航空写真撮影を実施、全ての作業が終了。

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 地理的環境

山都町は、阿蘇火山の火砕流噴火により形成された南外輪山の南麓一帯に東西約33km、南北約27kmに亘って広がり、面積は約544.83km²を有する典型的な中山間地である。東は宮崎県境に、西は上益城郡御船町、下益城郡美里町に接し、北は阿蘇郡高森町、南阿蘇村へ続き、九州島のほぼ中央部に位置している。

町の地形は阿蘇南外輪山山頂から緩やかな南斜面の準高原地帯が続き、緑川を挟んで九州脊梁山脈に面する地形で、標高約300mから約900mと推移する。こうした地形は約27万年から約9万年前の阿蘇カルデラの4回にわたる火砕流噴火活動によって形成されたもので、阿蘇火砕流堆積物に覆われている。最上層には通称「黒ボク」と呼ばれる黒色土、その下に「アカホヤ」と呼ばれる約6300年前の喜界カルデラ起源の火山灰が堆積しており、県内の土層堆積の中で鍵層になっている。

第2節 歴史的環境

東城ノ平遺跡を中心とした、周辺で確認された遺跡を当遺跡と関わる時代を中心に、その概要をとりまとめる。あわせて周辺遺跡の分布図を示す。

【旧石器時代】

山都町で確認されている旧石器時代の遺跡数は、10数例であり、すべて緑川右岸の全域に分布し、西北九州産と推測される黒曜石が認められるなど、広域的に痕跡が窺える。近年では、北中島西原遺跡において、AT降灰直前に形成された石器群が確認されている。

【縄文時代】

阿蘇地域における草創期の代表的な遺跡としては、高畑乙ノ原遺跡のほか南阿蘇村河陽F遺跡や、宮崎県高千穂町所在の阿蘇原上遺跡があり、爪形文土器等が出土している。

早期になると阿蘇外輪山全域において爆発的に増加する。遺跡の在り方は、カルデラ内と同様の外輪山高所は狩猟滞在型、山麓に拠点集落といった様相が想定される。代表的な遺跡として高畑乙ノ原遺跡、高畑前鶴遺跡、高畑宮ノ下遺跡、高畑赤立遺跡、今村高塚遺跡などがある。

前期は早期に比べやや減少する。代表的な遺跡として鍛冶床開拓遺跡、高畑赤立遺跡、高畑乙ノ原遺跡などがある。鍛冶床開拓遺跡では前期末に比定される瀬戸内地域の土器形式の里木I式土器のほか、滑石製の塊状耳飾、指貫型塊状耳飾が各1点表採されている。

中期は表採資料自体少なく様相は明らかでない。中期を代表する阿高式土器は、清和地区鶴ヶ田付近で表採された朝日西部小学校所蔵資料や高畑乙ノ原遺跡において確認されている。

後期から晩期においては町内各地で表採されているが、山麓の平坦な場所に集まる傾向がある。代表的な遺跡として男成遺跡では、晩期の黒川式土器に並行すると思われる竪穴住居跡が1基確認されている。

【弥生時代】

山都町内において弥生前期、中期に属する考古資料は少ないが、山立遺跡では前期末に比定される輝緑凝灰岩製の有柄式磨製石剣が表採されている。

後期になると南外輪山地域で遺跡の増加し、代表的な遺跡として高畑赤立遺跡、椎屋戸石平遺跡、稲生原遺跡が挙げられる。後期前半の高畑赤立遺跡では竪穴住居跡7基と土坑1基を確認したほか、住居床面において石包丁、磨製石鎌、紡錘車の未成品と打製石鎌が出土している。

【古墳時代】

南外輪山地域で確認されている古墳は、土行松古墳、下切古墳、郷の原古墳、峰古墳など数例に過ぎず、崖面に穴を穿って構築する横穴墓が主に採用されたと考えられる。代表的な横穴墓としては目丸横穴墓、北平横穴墓が挙げられる。調査事例のある北平横穴墓は、玄室プランが方形で天井形態がドーム状を呈し、屍床などの床面施設は確認されていないが、天井形態などから6世紀代と思われる。

【古代】

古代律令制において南外輪山地域は阿蘇郡、益城郡に属し、本遺跡が位置する矢部地区は「和名抄」の中にある益城郡宅部郷にあたるものと想定される。阿蘇氏は、阿蘇社神主と郡司を兼任する存在であった。白河天皇の承暦年間には「肥後阿蘇郡四境注文」（阿蘇文書）に基づき立荘された。古代末期には、阿蘇郡においてその領主権を確立し、下司的地位を確保した。

古代の遺跡は不明な点が多いが、平成4（1992）年度に調査がおこなわれた杉の本遺跡（南阿蘇村）は奈良時代の大規模な掘立柱建物跡や竪穴住居跡の住居群が検出された。当時の開発領主層の建物址と推測され、南郷谷において本格的な荘園支配がはじまる前の集落形態を示す遺跡として注目される。

【中世】

鎌倉幕府が成立すると、北条氏が阿蘇本社領及び甲佐、健軍、郡浦の三末社領の地頭職並びに預所職を有し、阿蘇氏に安堵状を与えている。南北朝期になると中央の政治情勢とを反映して、南郷谷も複雑な政争に巻き込まれる。阿蘇氏は南朝側に属し、鎮西探題を襲撃するなど積極的な行動を見せるが、足利尊氏の九州下向時に庶流坂梨孫熊丸を大宮司に補任したため、大宮司惟時は矢部に移り、阿蘇氏は南郷（北朝）矢部（南朝）の両大宮司家に分立する。南北朝期の動乱による二派の対立はその後15世紀末まで続くことになる。

山都町内では室町期の阿蘇氏の居館である「濱の館」がある。県立矢部高等学校の校舎改築に伴い昭和48（1973）年から発掘調査が行われ、桧皮葺礎石建物跡や庭園跡が確認されたほか、出土した緑釉鳥形水注、華南三彩鳥形水注、華南三彩牡丹文瓶、青磁盒子、白磁置物、玻璃製杯、黄金延板など21点が国指定重要文化財となっている。また、昭和50（1975）年には濱の館に併設していた「岩尾城」において確認調査が実施されており、本丸と呼ばれている平坦地で断面形が台形状を呈する土塁が検出され、土師皿、刀子のほか炭化米が出土している。

天正年間に入ると島津氏の侵攻により、天正13（1584）年に島津氏に服することとなり、大宮司職を威として支配権を握った中世阿蘇氏は消滅する。

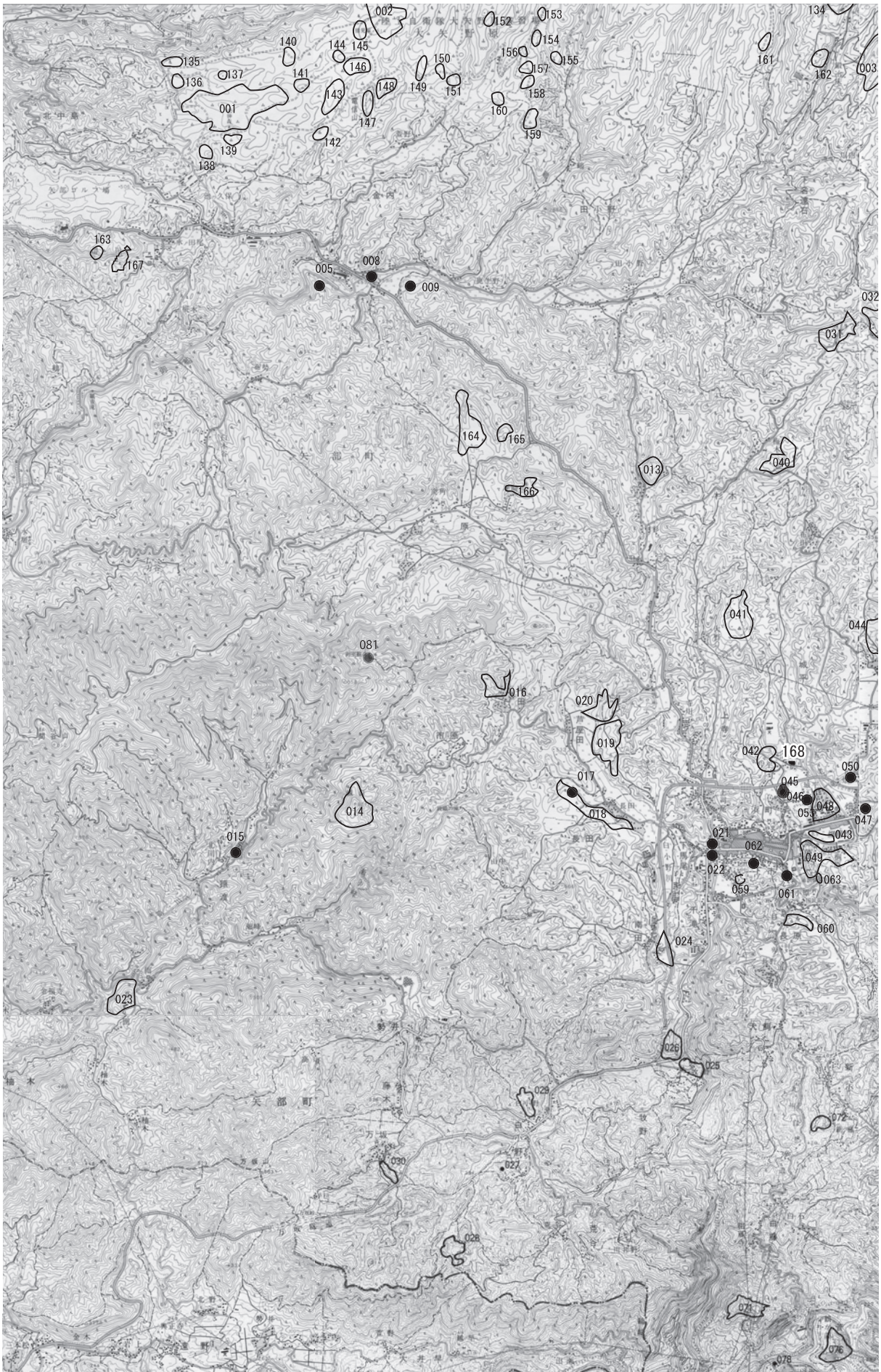
【近世】

天正15（1587）年に豊臣秀吉が西国征伐の軍を起し大軍を率いて西下する。これにより島津氏は無条件降伏をした。その後の肥後国衆一揆によって佐々成政が失脚すると、肥後は加藤清正と小西行長の領国に二分され、山都町内は小西領に編成されている。白糸台地南端に位置する矢部城（愛藤寺城）は、阿蘇氏によって築造されたとされる城郭で、阿蘇氏没落後は小西行長家臣結城与平次が城代となり、城内にキリスト教伝道所を建立したと伝えられている。慶長5（1600）年の関ヶ原合戦により小西行長が没した後は、加藤清正が肥後一国を領有することとなる。小西氏より引き継がれた矢部城においては、加藤越後守が城代に任命され、肥後熊本の東方面、日向国境の警固を担うため整備されたが、慶長17（1612）年に幕府の命令によって破却される。

江戸末期には惣庄屋、布田保之助を中心に基盤整備が施され、白糸台地における通潤橋架橋、通潤用水の整備が行われている。また、白糸台地一帯の棚田の景観は、「通潤用水と白糸台地の棚田景観」として国の重要文化的景観に選定されている。



第1図 熊本県域における地形表記と九州横断自動車道延岡線建設により発掘した遺跡



第3図 東城ノ平遺跡周辺遺跡地図 S=1/5000

表1 周辺遺跡名表

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
001	自衛隊大矢野原演習場	金内・池窪・牧野原	旧石器・縄文	包蔵地		土器・石器
003	伊良野原	郷ノ原 元伊良原	縄文～古代	包蔵地		
005	立野眼鏡橋	金内・早稲田	近世	建造物	町	
008	金内眼鏡橋	金内・井芹	近世	建造物	町	
009	和田祢一・平蔵の墓	金内（通称橋見）	近代	建造物	町	
013	寺尾城（亀甲城）	杉木 寺尾	中世	城		中世城跡
014	市の原城	市原 向平	中世	城		中世城跡
015	渡辺現・量蔵の墓	猿渡 車屋	近代	墓	町	
016	山田	山田 市原	縄文・弥生	包蔵地		縄文早期土器・弥生後期土器
017	長田十三塚	長田 萱木	中世	墳墓		
018	長田	長田 原	弥生	包蔵地		弥生早前中期土器・弥生土器
019	芦屋田上の原	芦屋田 ハフの尾	縄文・弥生	包蔵地		縄文早期土器・弥生後期土器
020	芦屋田	山田 古閑原	縄文・弥生	包蔵地		縄文早期・弥生後期土器・石砲丁
021	矢部勘右衛門重光墓	下馬尾 平の迫		墓	町	
022	浜町橋	下馬尾 平の迫		建造物	町	
023	猿渡城	猿渡 宮の前	中世	城		中世城跡
024	南田	南田 原前	縄文	包蔵地		縄文前期土器・石匙・石砲丁
025	牧野	牧野 馬入	縄文	包蔵地		石匙
026	京のジョウロウ	牧野 京のジョウロウ	弥生～古代	包蔵地		土師器（西新町式）
027	名荷野の一字一石塔	白小野 名荷野	中世	石造物		経石 甕
028	池の城	荒谷 池代	中世	城		中世城跡
029	白尾野城	白小野 橋詰	中世	城		中世城跡
030	小野城	万坂 屋敷	中世	城		中世城跡
031	風の木	下名連石 風の木	縄文	包蔵地		縄文早期土器
032	造別当	下名連石 造別当	縄文	包蔵地		石鏃
040	梅の木城	杉木 辻	中世	城		中世城跡
041	大野十三本松	上寺 拾三本	縄文・中世	包蔵地		縄文晩期・弥生後期土器・石斧・石匙
042	片平	城平 城の平	縄文	包蔵地		縄文早期土器
044	入佐	入佐 吉原	縄文	包蔵地		石匙
045	阿蘇大宮司歴代墓所	城平 城の平	中世	墓地	町	華蔵寺内にあり、古塔碑群も町指定
046	法印豪忠墓	城平 城の平	中世	墓	町	
047	阿蘇大宮司惟種墓所	畑 無田口	中世	墓地	町	宝篋印塔
048	浜の館跡	城平 東前田	中世	館	県	阿蘇大宮司館跡 出土品多数
049	岩尾城跡	城原 本丸 二の丸	中世	城	町	中世城跡
050	上屋敷墓地	浜町 畑 上屋敷	中世	墓地		宝篋印塔 阿蘇家墓地 板碑3つ
053	福王寺跡	城平	中世	寺社		
059	風の神	下市 染野	中世	祭祀		風の神祭祀か
060	小原	長原 屋敷	弥生	包蔵地		弥生中期土器
062	渡辺の墓	下市 染野	近代	墓	町	
063	通潤橋	長原 西谷	近世	建造物	国	眼鏡橋
071	愛藤寺城跡	白藤 下町口	中世	城	町	舞鶴城、愛藤寺跡に阿蘇大宮寺築く、大正年中落去
072	新藤南	新小 南屋敷	弥生	包蔵地		弥生後期土器
076	鬼ヶ城	管 鬼ヶ城	中世	城		
078	七曲岩蔭	目丸 七曲	縄文	包蔵地		
081	御屋観音	市原	近世	建造物		
134	大矢野原第 47	金内	旧石器・縄文	包蔵地		定型石器・剥片・土器片採取
135	大矢野原第 48	金内	旧石器・縄文	包蔵地		定型石器・剥片・土器片採取
136	大矢野原第 49	金内	旧石器・縄文	包蔵地		定型石器・剥片・土器片採取
137	大矢野原第 50	金内	旧石器・縄文	包蔵地		定型石器・剥片・土器片採取
138	大矢野原第 51	金内	旧石器・縄文	包蔵地		定型石器・剥片・土器片採取
139	大矢野原第 52	金内	旧石器・縄文	包蔵地		定型石器・剥片・土器片採取
140	大矢野原第 53	金内	旧石器・縄文	包蔵地		定型石器・剥片・土器片採取

表2. 周辺遺跡地名表

141	大矢野原第 54	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
142	大矢野原第 55	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
143	大矢野原第 56	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
144	大矢野原第 57	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
145	大矢野原第 58	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
146	大矢野原第 59	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
147	大矢野原第 60	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
148	大矢野原第 61	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
149	大矢野原第 62	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
150	大矢野原第 63	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
151	大矢野原第 64	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
152	大矢野原第 65	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
153	大矢野原第 66	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
154	大矢野原第 67	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
155	大矢野原第 68	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
156	大矢野原第 69	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
157	大矢野原第 70	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
158	大矢野原第 71	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
159	大矢野原第 72	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
160	大矢野原第 73	金内	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
161	大矢野原第 74	下名連石	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
162	大矢野原第 75	下名連石	旧石器・縄文	包蔵地	定型石器・剥片・土器片採取
163	皿木遺跡	北中島 皿木	縄文	包蔵地 散布地	
164	北原遺跡	原 北原 中畑	縄文	包蔵地	
165	中畑遺跡	原 中畑	縄文	包蔵地	
166	餅田遺跡	原 昶子 餅田	縄文～平安	包蔵地	
167	北中島西原遺跡	山都町北中島古皿木	旧石器・縄文・ 弥生	包蔵地	旧石器・弥生土器
168	東城ノ平遺跡	山都町城平	縄文～古代	包蔵地	

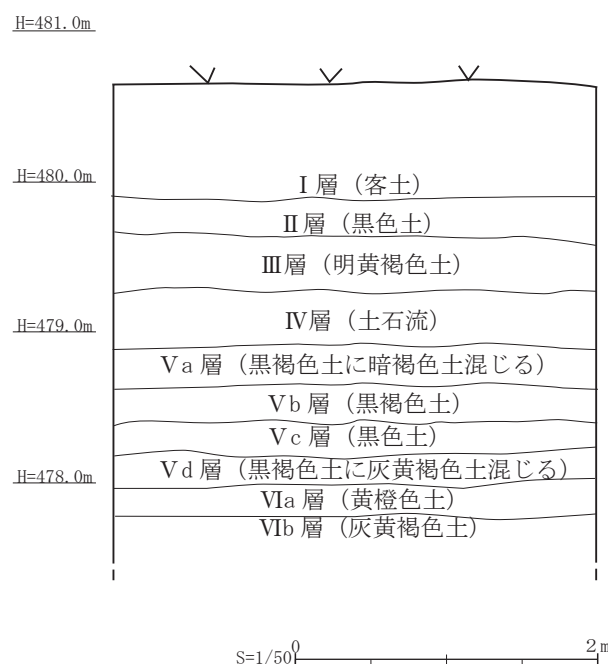
第Ⅲ章 調査の成果

第1節 調査地の基本土層

当遺跡で確認された層序は基本土層柱状図（第4図）にまとめる。地点によって各層位が削平・再堆積・水性堆積が認められる場合、その都度層位比較を行い細分した。

- I 層 灰黄褐色土 (Hue10YR6/2) 農地造成による客土。層厚は地点によって 70cm～170cmを測る。
- II 層 黒色土 (Hue10YR2/1) 旧耕作で現代の遺物を含む。層厚は地点によって 10cm～20cmを測る。
- III 層 明黄褐色土 (Hue10YR6/8) 土質は粒子が細かく粘性が欠しい火山灰層。層厚は地点によって 20cm～30cmを測る。
- IV 層 にぶい黄褐色土 (Hue10YR5/4) ローム質の粘性があり、角礫を多量に含む。層厚は地点によって 30cm～100cmを測る。土石流堆積物である。
- V a 層 黒褐色土 (Hue10YR3/1) に暗褐色土 (Hue10YR3/4) が混じる。土質はしまりがなく柔らかい層である。層厚は地点によって 10cm～30cmを測る。
- V b 層 黒褐色土 (Hue10YR3/1) 土質は粒子が細かく、ややしまりがある。層厚は地点によって 20cm～50cmを測る。
- V c 層 黒色土 (Hue7.5YR1.7/1) 土質は粘性が強い土である。層厚は地点によって 30cm～70cmを測る。
- V d 層 黒褐色土 (Hue10YR3/1) に灰黄褐色土 (Hue7.5YR4/2) が混じる。土質は粘性が非常に強い土である。層厚は地点によって 10cm～30cmを測る。
- VI a 層 黄褐色土 (Hue10YR5/6) 土質は粘質が強い土である。層厚は地点によって 20cm～40cmを測る。
- VI b 層 灰黄褐色土 (Hue2.5Y6/2) 土質は V a 層と同様に粘質が強い土で微細な砂を含む。水性堆積によるものと考えられる。層厚は地点によって 30cm以上を測る。

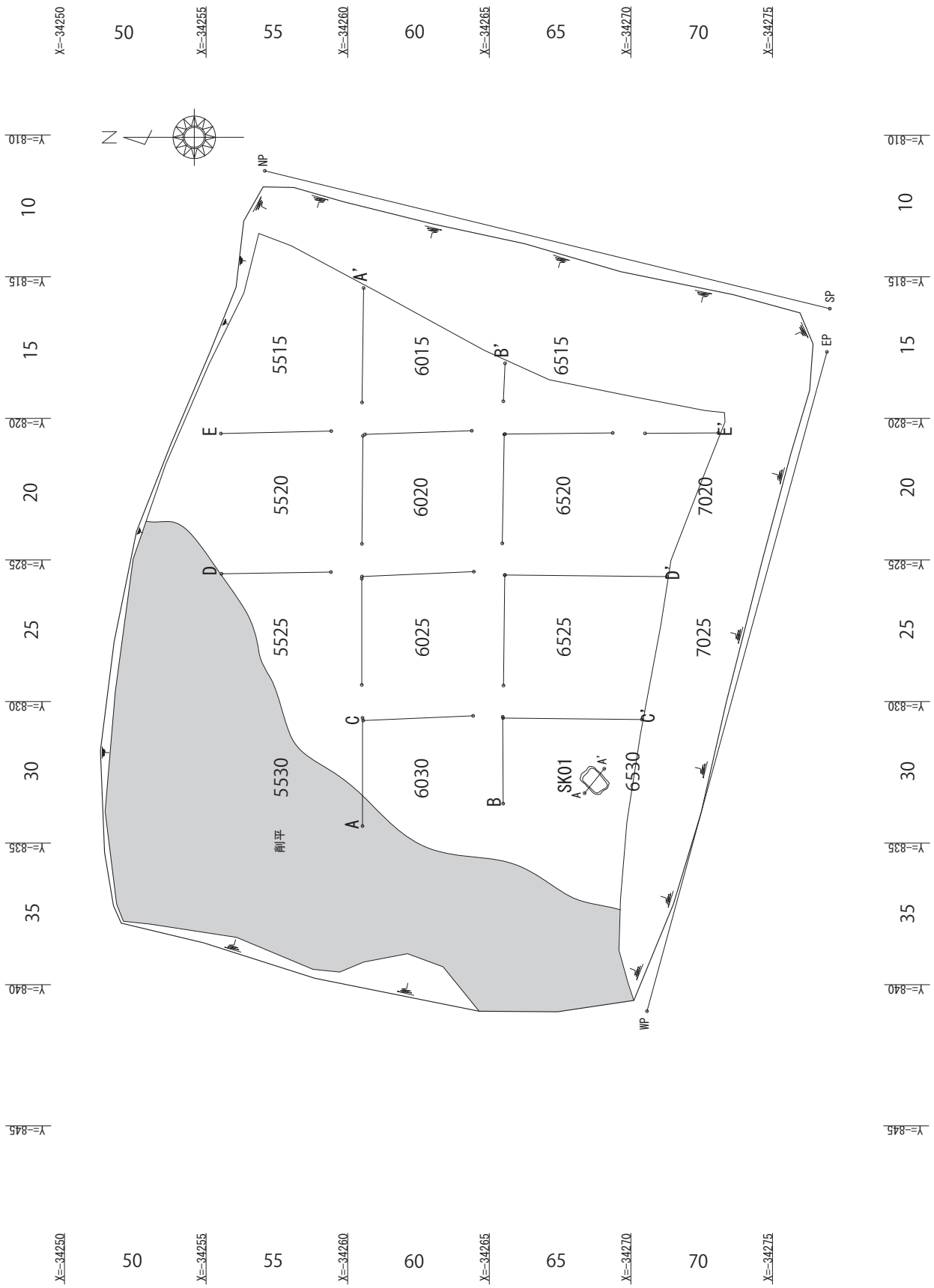
当遺跡の調査方法は、基本土層の I 層から IV 層（土石流堆積物）までを重機で除去したあと、V 層以下の土層観察用の断面を残しながら人力で掘り下げていく方法をとった。遺構確認面を VI 層に設定し、調査を進めた。



第4図 調査区基本土層図



第6図 東城ノ平遺跡 調査区東壁土層断面図及び南壁土層断面図 S=1/100



第7図 東城ノ平遺跡 土層断面ポイント及びグリッド設定図 S=1/200



第8図 東城ノ平遺跡 調査区土層断面図 S=1/80

第2節 調査の方法

発掘調査区は、試掘調査で遺物・遺構が確認された敷地内に設定した。調査面積は900㎡である。

発掘調査は、V層（黒褐色土層）上面まで重機によって撤去し、調査区の四方に新規のトレンチを設定し土層を確認した。その結果、北西側から南西側に向かって、3 m以上の深さでI層～IV層（土石流堆積物）が確認された。上層除去後、直ちに作業員により人力で遺物包含層の掘削作業を行った。

4級基準点及びメッシュ杭設置作業は、株式会社有明測量開発社に委託して実施した。メッシュ杭は平面直角座標にのせ5 m単位とした。この5 m四方の区画を1グリッドとし発掘調査区を設定した。グリッド割付に際しては南北方向にX軸座標下二桁－50～－75と東西方向Y軸座標下二桁－40～－10の組合せによってグリッド番号とした。

第3節 遺構・遺物

遺構は、土坑が1基のみ検出されている。

土坑 SKO1（第9図）

土坑は、調査区西壁沿いに位置する。V c層上面で検出したが、遺構内の覆土からⅢ層からの掘り込みと考えられる。

平面プランは隅丸方形を呈する。長径98cm、短径67cm、深さ20cmを測る。埋土はⅢ層に近い黒褐色土である。上面は削平されており浅く、遺構の性格を示すような資料は得られなかった。

調査区内の出土遺物（第10図）

調査区から出土遺物は、コンテナで1箱であったが、その多くが流れ込んだもので、今回図化できたのが以下の5点である。小破片であるが、本遺跡では、他に出土していないため報告する。

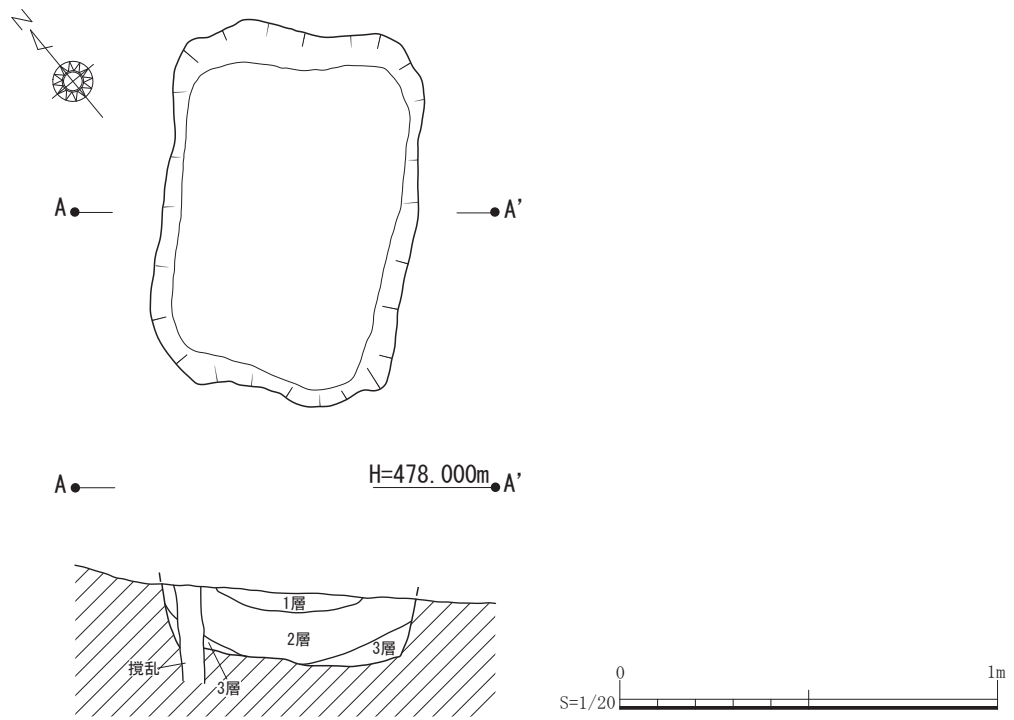
1は、弥生土器で、器形は甕で、胴部の破片である。

2は、時期不明の須恵器で、器形は、甕の片と考えられる。外器面には格子目タタキ痕が認められる。格子目タタキ目が、細かいこと、内面にタタキ痕を見られることから古代の物と推定される。

3は、黒曜石製の使用痕を持つ剥片である。ネガ面、ポジ面共に縦長剥片剥離の痕跡が見られ、剥片下端部が折り取られている。不純物が認められない西北九州産の黒曜石を用いている点、連続した縦長剥片剥離、及び側面に微細な使用痕が認められ点から、縄文時代後期の鈴桶技法による石刃と考えられる。

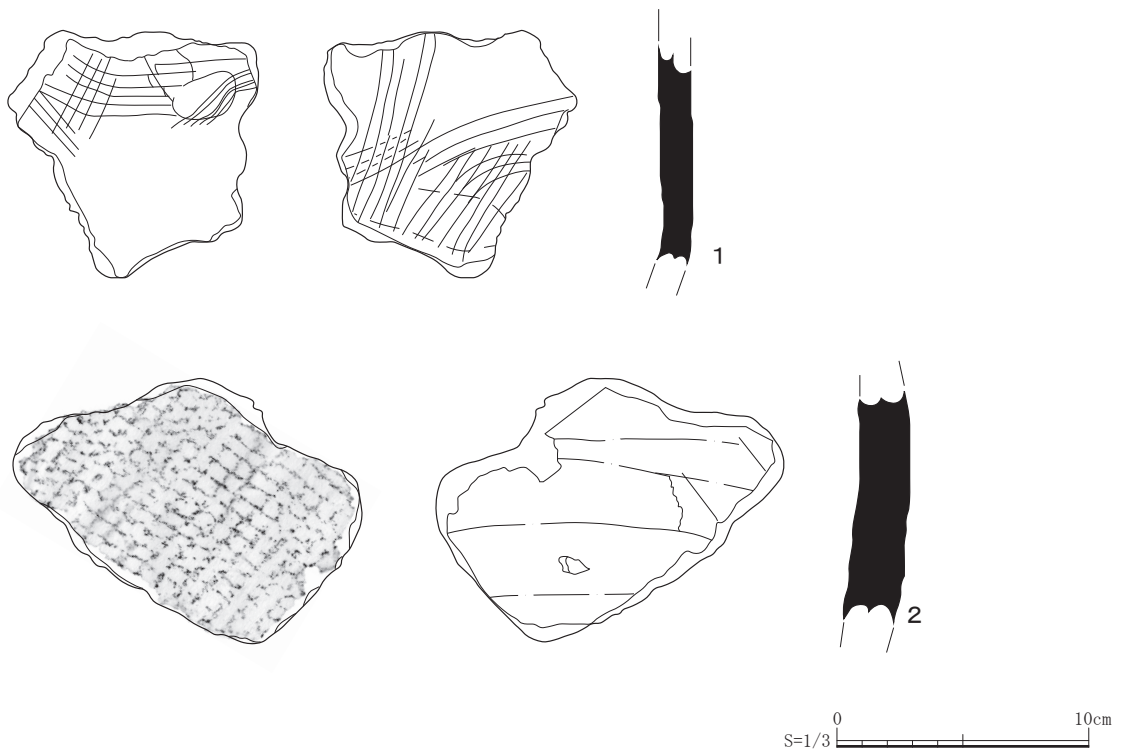
4は、チャート製の剥片である。緑川流域で産出する硬質な石材を用いており、表面右側面に折れ面、同左側面に急角度の加工が認められる。打面は無く点状打面である。明確な時期を示す特徴に乏しいが、3の使用痕を持つ剥片と同様な時期と考えられる。

5は、安山岩製の磨製石斧の刃部片である。刃部が直交せず内湾する点、左右両側面、胴部付近を緻密な敲打により形状を整形している点から、縄文時代後期から晩期の磨製石斧と考えられる。

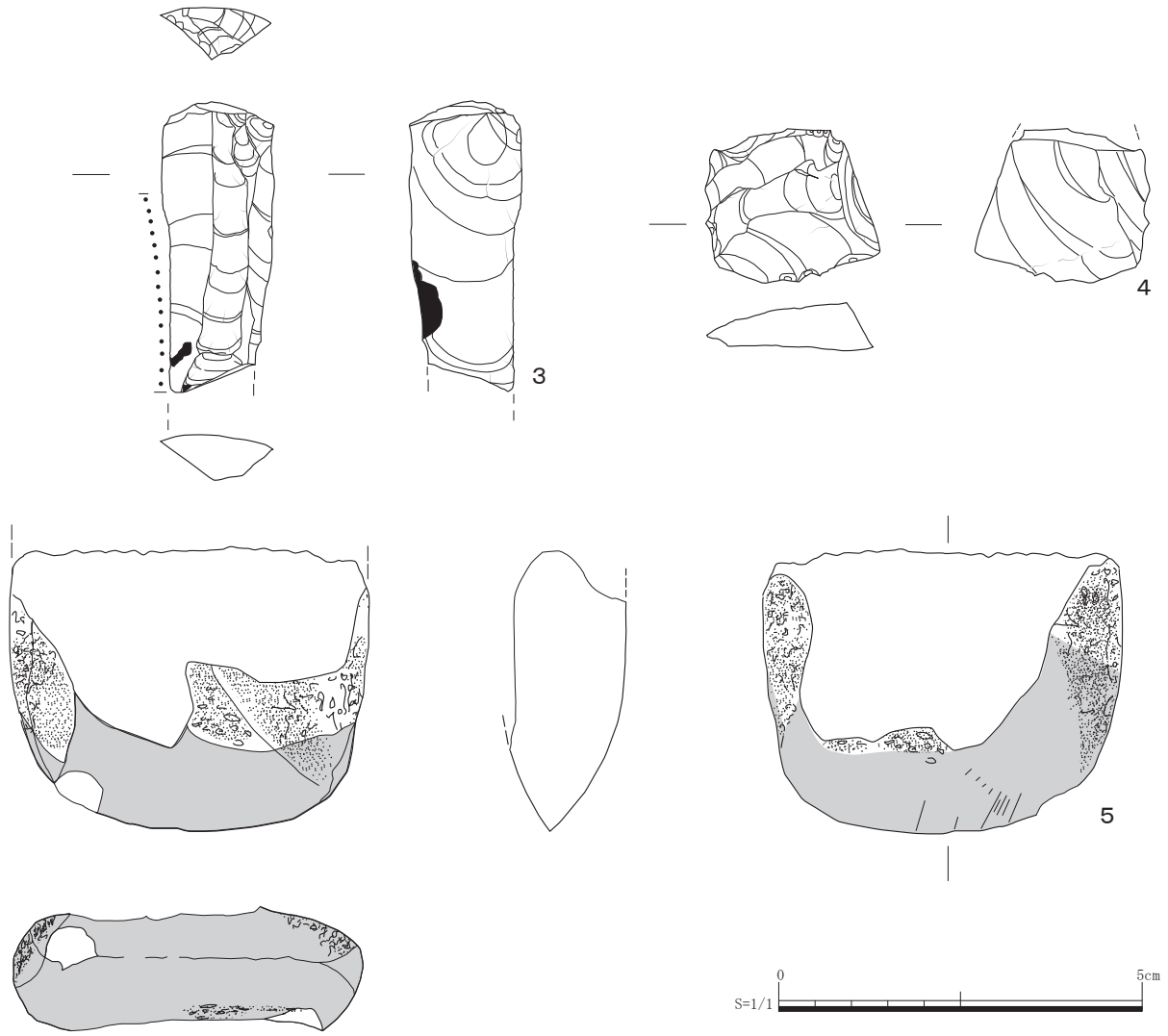


- 1層 黒褐色土 (Hue7.5 YR3/2) しまりが強くテフラが混ざる。基本土層のⅢ層に近い。
- 2層 黒褐色土 (Hue7.5 YR2/2) 1層より黒色が強い。1層同様若干テフラが混ざる。
- 3層 黒褐色土 (Hue7.5 YR2/2) に明黄褐色土 (Hue10YR6/6) が混ざる。1～2層同様しまりがある。

第9図 東城ノ平遺跡 土坑SK01 平面・断面実測図



第10図 東城ノ平遺跡 調査区出土遺物実測図一①



第 11 図 東城ノ平遺跡 調査区出土遺物実測図一②

表 3. 遺物観察表(土器)

図版 No.	遺物 No.	器種	出土地点		法量			色調		調整		胎土	焼成	残存部位	備考
			グリッド	層位	口径	底径	器高	内器面	外器面	内器面	外器面				
	1	弥生土器(甕)	調査区	—	—	—	(4.7 c m)	2. 5Y3/1 黒褐	5YR5/6 明赤褐	ハケ目	ハケ目	石英・長石	良	胴部	一部指頭圧痕あり
	2	須恵器(甕)	調査区	—	—	—	(5.0 c m)	N5/ 灰	N5/ 灰	回転ナデ	格子目タタキ	輝石・砂粒	良好	胴部	横方向の回転ナデの後で一部斜めにナデ上げている

表 4. 遺物観察表 (石器)

図版 No.	遺物 No.	器種	石材	出土地点	法量 (cm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
	3	使用痕剥片	黒曜石	調査区	(4.0)	1.5	0.7	3.7	使用痕
	4	剥片	チャート	調査区	2.3	2.1	0.9	4.8	
	5	磨製石斧	安山岩	調査区	(4.85)	4.95	(1.6)	50.4	使用痕

第IV章 総括

東城ノ平遺跡は九州横断自動車道延岡線建設工事に伴って新たに発見された遺跡である。道路建設に伴い今回発掘調査した面積は900㎡である。調査地は南側に向かって落ちている谷状の地形である。堆積土は、I層～IV層までの厚さは2.5mを測り重機による掘削を行った。その下層よりV層遺物包含層と想定される土層を人力によって掘り下げを行った。III層（アカホヤ層）の直下にIV層土石流堆積物が確認され、更に50cmを掘り下げようやく試掘によって確認された礫群の出土層VI層に到達した。VI層は谷に堆積した自然堆積層の砂礫層が確認できた。

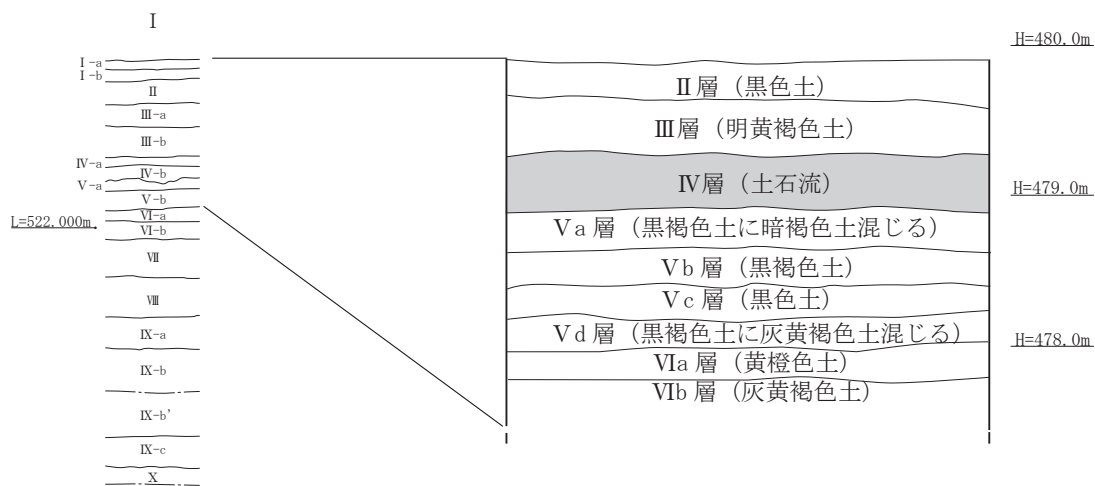
検出した遺構は、III層から掘り込まれた土坑1基である。しかし、詳細な時期判断は出土遺物が無いため特定できない。

出土した遺物は、点数も非常に少なく網コンテナ1箱であった。遺物自体の残りも非常に悪く、図化できた遺物は、II層黒色土中から出土した5点のみである。

今回の調査では、遺跡の様相等を確認するような遺構・遺物は出土しなかった。しかし、出土遺物から当該地もしくは隣接地に縄文時代の遺跡が存在したことがうかがえる。

以上の状況、周辺の立地から、東城ノ平遺跡の遺跡形成を考察する。巻頭図版1にあるように、遺跡は、矢部中学校のある北側の丘陵から続く丘陵の端部に位置する。小規模な迫地が南側に迫っており、土層図からはIV層土石流が認められている。一方、今回検出された隅丸方形の遺構は、III層からの掘り込みで、幸い土石流の影響を受けていない調査区南西側で検出している。

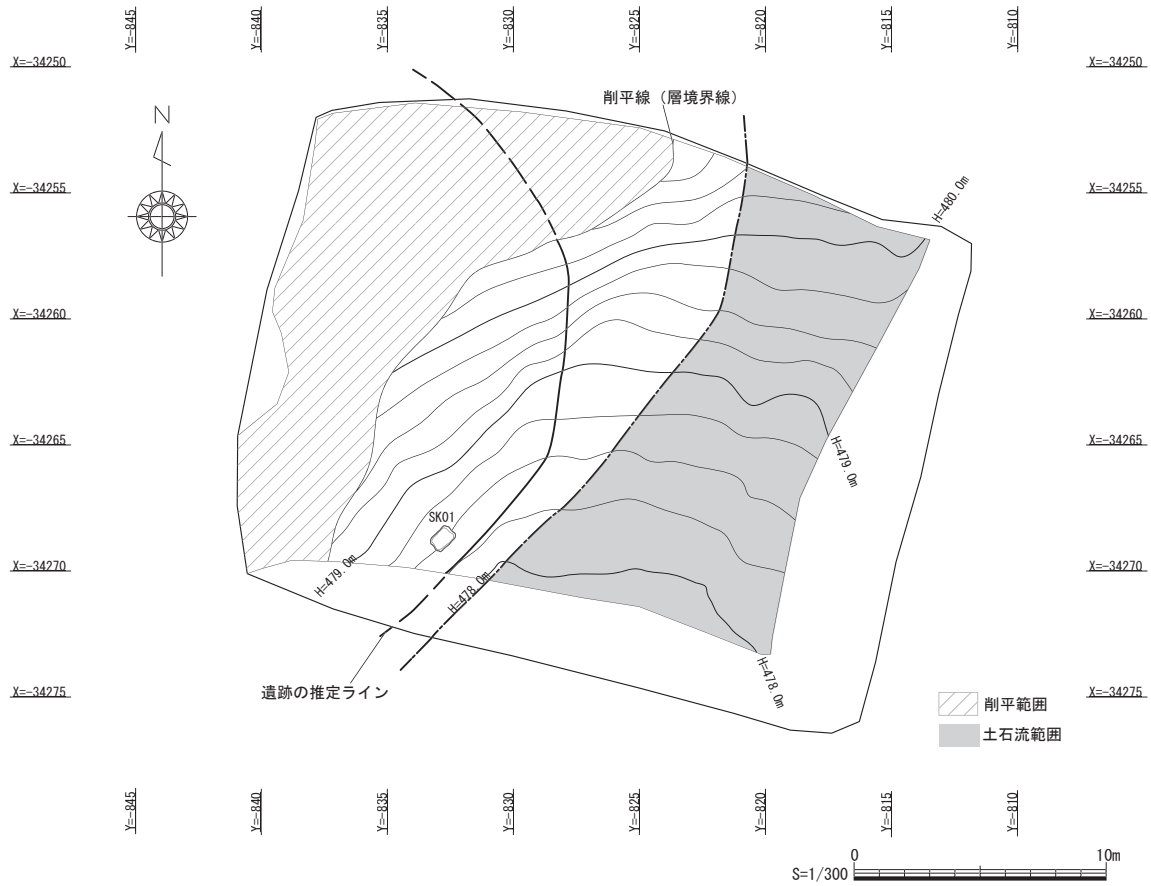
このことから、遺跡の広がり、土石流堆積物が確認できなかった調査区の南西側から西側に向かって広がりが想定できる。



北中島西原遺跡土層柱状図
(熊本県文化財調査報告 319 集より)

東城の平遺跡土層柱状図より

第12図 北中島西原遺跡基本土層との対比図(縮尺任意)



第13図 東城の平遺跡の広がりについて

【引用・参考文献】

矢部町史編纂委員会『矢部町史』1983
 蘇陽町誌編纂委員会『蘇陽町誌 通史編』蘇陽町1996
 蘇陽町教育委員会『高畑赤立遺跡発掘調査報告書』蘇陽町文化財調査報告書第1集1988
 蘇陽町教育委員会『今高塚遺跡発掘調査報告書』蘇陽町文化財調査報告書第2集1990
 蘇陽町誌編纂委員会『蘇陽町誌編纂基礎資料（高畑赤立遺跡・北平横穴）』第6集
 山都町教育委員会『高畑乙ノ原遺跡・高畑前鶴遺跡・高畑宮ノ下遺跡』山都町文化財調査報告書第1集
 山都町教育委員会『矢部城（愛籐寺城）測量調査報告書』山都町文化財調査報告書第3集
 熊本県教育委員会『濱の館』熊本県文化財調査報告書第21集1977
 熊本県教育委員会『狩尾遺跡群』熊本県文化財調査報告書第131集1993
 熊本県教育委員会『二本木前遺跡』熊本県文化財調査報告書第167集1998
 熊本県教育委員会『祇園遺跡』熊本県文化財調査報告書第188集2000
 熊本県教育委員会『河陽F遺跡』熊本県文化財調査報告書第209集2003
 熊本県教育委員会『山下遺跡』熊本県文化財調査報告書第260集2011
 熊本県教育委員会『塔平遺跡1』熊本県文化財調査報告書第285集2013
 熊本県教育委員会『北中島西原遺跡』熊本県文化財調査報告書第319集2016
 熊本県教育委員会『熊本県遺跡地図』1994
 阿蘇品保夫『阿蘇社と大宮司』一の宮町史編纂委員会1999
 阿蘇狩人の会『阿蘇地域周辺における旧石器文化新資料の紹介—その3—』『肥後考古』第13号2005

写真図版

写真機材 《遺構》

カメラ：MAMIYA RB67

NIKON F3

フィルム：FUJI RDP III

FUJI NEOPAN ACROS 100

《遺物》

カメラ：NIKON D810



1. 東城ノ平遺跡完掘状況 遺跡上空より



1. 調査区南側土層断面



2. 6530G 南側土層断面



1. 調査区完掘状況 (東→西)



2. 調査区完掘状況 (西→東)



1. 調査区完掘状況（南→北）



2. 調査区完掘状況（北→南）

図版 5



1. 6015G 北側断面



2. 6020G 北側断面



3. 6025G 北側断面



4. 6030G 北側土層断面



5. 6515G 北側断面



6. 6520G 北側断面



7. 6525G 北側断面



8. 6530G 北側断面



1. 6530G 南側断面



2. 5520G 東側断面



3. 6020G 東側断面



4. 6520G 東側断面



5. 7020G 東側断面



6. 5525G 東側断面



7. 6025G 西側断面



8. 6030G 東側断面

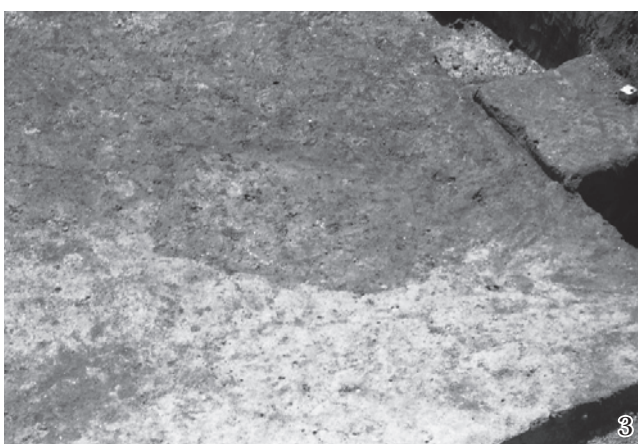
図版 7



1. 6525G 東側断面



2. 6530G 東側断面



3. 土坑 SK01 検出状況



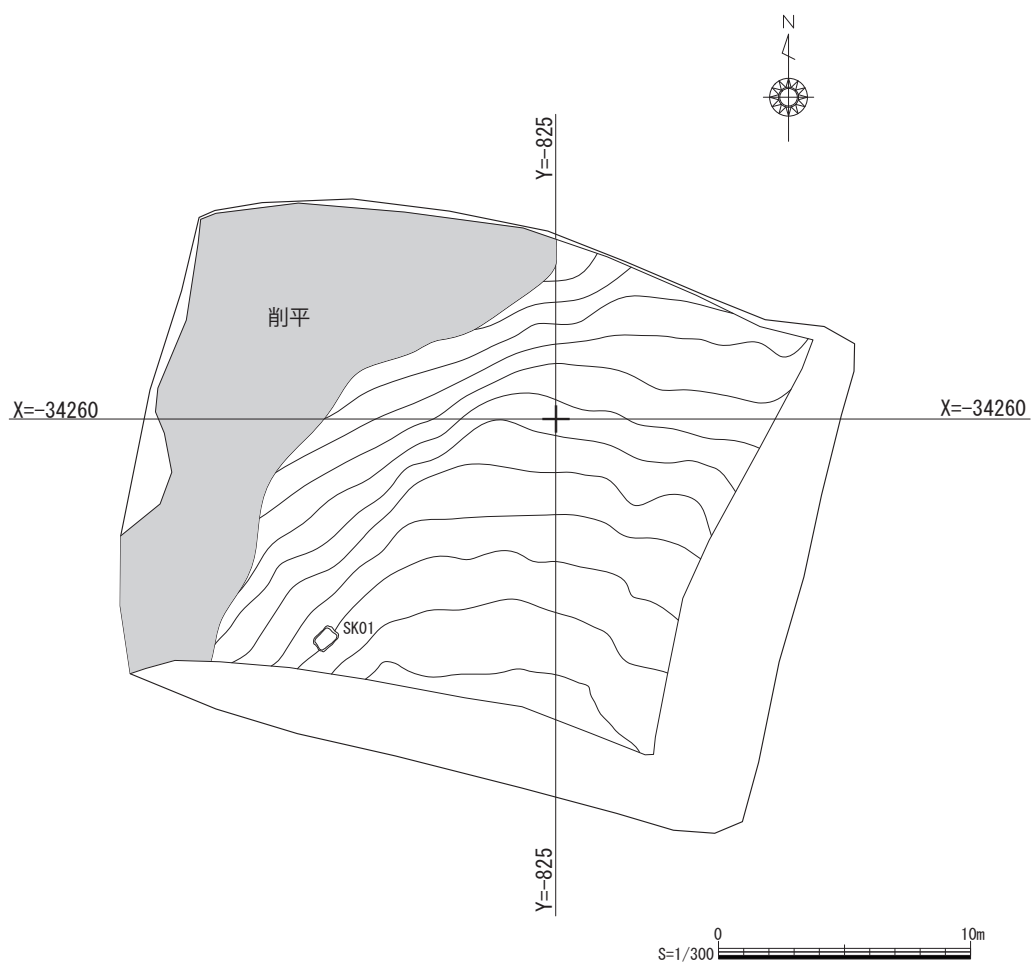
4. 土坑 SK01 半裁断面



5. 土坑 SK01 完掘状況



1. 東城ノ平遺跡調査区出土遺物



第 14 図 東城ノ平遺跡座標測地点図 S=1/300

報告書抄録

ふりがな	ひがしじょうのひらいせき
書名	東城ノ平遺跡
副書名	九州横断自動車道延岡線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ名	熊本県文化財調査報告書
シリーズ番号	第327集
編集者	廣田 静学
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862-8609 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号
発行年月日	2018年3月31日
資料の保管場所	熊本県文化財資料室 〒861-4215 熊本市南区城南町沈目1667 Tel.0964-28-4933

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号					
ひがしじょうのひらいせき 東城ノ平遺跡	くまもとけん 熊本県 かみましきぐん 上益城郡 やまとちょうじょうのひら 山都町城平	43-447	168	32°41' 27.76779"	130°59' 28.32614"	2016/7/6 ～ 2016/9/30	900 m ²	九州横断 自動車道 延岡線建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	特記事項
東城ノ平遺跡	包蔵地	縄文時代～古代	土坑	土石流による堆積や後世の造成による破壊によって、遺跡の残りは非常に悪い。

要約	東城ノ平遺跡の調査地は、微高地の中腹に位置し、南北方向に約30°程度の傾斜地である。堆積状況は通常の堆積とは異なり土石流による堆積層によって形成している。
----	---

本誌の仕様

- ・ 版型 A4判
- ・ 頁数 48頁
- ・ 組版 13級 小塚明朝 orMS明朝
Adobe Indesign CS6(For windows)
- ・ 印刷 オフセット印刷
- ・ 製版 本誌モノクロ及びカラー印刷写真はすべてスクリーン線数200線で製版
- ・ 用紙 表紙：アートポスト紙220kg
見返し：上質紙110kg
大扉・序文・目次等・本文・抄録・奥付：上質紙110kg
巻頭カラー・写真図版等：特アートSA金藤4/6 135kg
- ・ 製本 糸かがり綴じ
- ・ 本誌加工 PP(ポリプロピレン)貼り

2018年3月31日印刷

2018年3月31日発行

熊本県文化財調査報告 第327集

東城ノ平遺跡

著作権所有 熊本市中央区水前寺六丁目18番1号

発行者 熊本県教育委員会

印刷所 熊本県玉名市寺田123-1

株式会社 有明印刷

発 行 者： 熊本県教育委員会
所 属： 教育総務局文化課
発行年度： 平成 29 年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第327集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：東城ノ平遺跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

電話：096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦2019年8月30日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会

URL：<http://www.kumamoto-bunho.jp/>